

1 基本情報							
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要					
都市部の公園・東部グループ		(指定管理者名) アメニス東部地区グループ (団体の概要)					
指定期間		代表団体：株式会社日比谷アメニス 構成団体：日建総業株式会社					
H28.4.1 ～ R05.3.31（7年間）							
2 施設名		3 収支（単位：千円）					
		項目	金額	公園別支出額			
猿江恩賜公園	中川公園	収入 計	655,636	猿江恩賜公園	119,826	中川公園	59,180
亀戸中央公園	大島小松川公園	内 指定管理料	655,636	亀戸中央公園	85,109	大島小松川公園	190,922
尾久の原公園	宇喜田公園	課 利用料金	0	尾久の原公園	38,588	宇喜田公園	25,806
東綾瀬公園		支出 計	655,636	東綾瀬公園	136,201		
		収支差	0				
4 管理運営の概要							
<p>基本方針に挙げた「TOKYO PARK TRIP」の実現のため、公園を訪れる皆がわくわくするような公園作りを積極的に目指した。しかし、昨年度終盤より拡大傾向にあった「新型コロナウイルスCovid-19」の感染拡大防止への対応に迫られる1年であった。4月から約2カ月に渡る緊急事態宣言の期間においては、BCP体制によって職員を2班体制として感染防止に努めた。1月から約3か月に渡る緊急事態宣言の期間では、業務縮小が出来ず、物理的な感染防止策（パーテーション設置、アルコール消毒液の徹底、など）やルールの徹底（感染防止5つのルールの徹底、ヘルスチェックの継続、COCOAの導入推奨、など）を行い、職員から一人の感染者を出さずに対応できた。しかし、BCP体制における職員の減少に伴い、管理工程の遅延に対する対応や多様な利用に対する相反する苦情要望への対応、巡回や利用指導の頻度増加、などに苦勞を強いられた。感染拡大防止のためイベントの開催が全くできなかったが、これまでと違った新しい取り組みにチャレンジできたことは収穫でもあった。</p>							
5 管理状況（維持管理）							
<p>樹木管理では、「新型コロナウイルスCovid-19」の感染拡大防止への対応として、BCP体制によって職員でまとまった作業をすることが出来ず、工程遅延の恐れがあった。特に伸びた草丈に対しては、若干対応が遅れると思われたが、委託業者と連携を取って、その遅れを取り戻すように努めた。また、広大な面積の草地管理を適正に行うための施策が望まれており、草刈りロボットの導入を検討するため、テストを実施した。</p> <p>継続的に全公園で園路際・樹林地・広場などエリア毎の機能剪定を実施し、季節毎の花や紅葉を通じた公園の魅力の中川公園のモミジや亀戸中央公園のツバキ、なども楽しんでいただいた。ハーブや花を活用した新たな公園の魅力作りを推し進め、宇喜田公園のハーブガーデンの活動、大島小松川公園自由の広場大花壇での活動、東綾瀬公園でのハーブガーデンでの活動が充実し、公園ならではの魅力を創出した。緊急事態宣言の期間においても維持管理作業だけは継続していただき、時間と場所のずれを取りながら実施してもらった。</p> <p>施設・設備管理では、平成23年度から7年間蓄積した設備機械台帳のデータを元に計画的に修繕を行い、更なる施設の予防保全、長寿命化に向けた改善を推進した。利用者からの施設や設備の要望にも適切に対応し、増額予算の計画的な実施や緊急対応経費による不具合の修繕作業などで対応し、利用者要望を適切に反映させることができた。1月には大島小松川公園の有料施設更衣室や大型遊具に光触媒による抗菌塗布を実施して、感染拡大の防止に努めるようにしている。</p> <p>各公園で東京都発注工事があり、工事業者と打合せをしっかりと行った。特に東綾瀬公園では最大5件の工事が集中し、打合せやスペースの確保、利用者の安全確保に留意した。また台風の影響を全く受けなかった1年であったため、3月には枯枝などの確認、先行防除を行い、第三者災害がないように迅速な対応を実施した。大島小松川公園の六価クロムと尾久の原公園のダイオキシンについては、細やかなリスク対応を毎日行っている。結果利用者からのクレームは1件もなく、適切なリスク管理ができています。</p> <p>東京都が取り組んでいる「再生エネルギーの利用を推進する」ため、電力供給先を変更し、「都立公園初の再生可能エネルギー100%の電力による公園管理運営」を開始した。この取り組みによってCO2排出量の削減効果見込は、年間720t-CO2/年となり、SDG's の目標に近づいた。</p>							
6 利用者アンケート結果							
実施方法：							
施設名	回答数	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	施設ごとの分析・評価
猿江恩賜公園	105	4.4	4.5	3.8	4.2	4.2	前年度とほぼ同ポイントで推移。高い満足度を保つ。施設の清潔さが劣るのは計画的な修繕が必要。
亀戸中央公園	130	4.6	4.6	4.0	4.4	4.3	全体的に満足度が低下。総合満足度と植栽管理については高い水準。イベント開催がなかったことが影響か？
尾久の原公園	157	4.5	4.6	4.1	4.5	4.3	前年度とほぼ同ポイントで推移。高い満足度を保つ。
東綾瀬公園	133	4.6	4.5	4.0	4.3	4.3	全体的に満足度が低下。総合満足度と植栽管理については高い水準。イベント開催がなかったことが影響か？
中川公園	120	4.7	4.8	4.3	4.6	4.7	総合満足度は高評価。コロナ禍で遠方へ外出できず、普段使われていた利用者の感謝の声が多かった。
大島小松川公園	137	4.6	4.5	4.0	4.3	4.3	総合的に評価は高い。イベントが出来なかったが、花壇や動画配信、クラフト体験で評価を高めた。
宇喜田公園	112	4.7	4.7	4.0	4.4	4.4	昨年同様、高評価であった。コロナ禍での公園利用でハーブガーデンの評判が良かった。
グループ平均	128	4.6	4.6	4.0	4.4	4.4	
グループ全体の分析・評価							
<p>7公園では毎年秋にアンケート調査を行っているが、昨年よりも若干評価が落ちている。新型コロナウイルス感染拡大により、どの公園もイベントが開催できず、また運動施設等の利用制限があり、評価に反映してしまっただけで、と考える。しかしグループ平均では4ポイントを超えて、高い水準となった。特に総合満足度、植栽管理の満足度は高く、世界の花壇作りで猿江恩賜公園のチューリップ花壇、大島小松川公園のイングリッシュ風花壇、宇喜田公園や東綾瀬公園のハーブガーデン、といった公園ごとに特色ある花壇作りを行ったこと、しっかりとした植物管理が行われたこと、が要因だと考える。全体で施設の清潔さのポイントが比較的低くなっているが、老朽化が見られる施設が多くあるため、計画的に修繕等を進めていく。</p>							
7 利用者数の状況（単位：人）							
施設名	当該年度	前年度	差	分析・評価			
猿江恩賜公園	1,546,204	1,789,369	△243,165	江東こどもまつりやチューリップフェスタ、防災フェスタなど大型イベント中止により利用者数が減少した。			
亀戸中央公園	1,575,387	1,006,058	569,329	遊具を中心に平日のファミリー層利用者数が大幅に増加。動画を使用した新たな利用促進も効果があった。			
尾久の原公園	1,009,338	1,004,978	4,360	生き物観察シートなど、イベントが実施できない中での公園の新たな楽しみ方を提案し利用者増となった。			
東綾瀬公園	2,475,402	3,480,404	△1,005,002	コロナ禍による綾瀬駅までの通勤等通り抜け利用者の大幅減、武道館等園内施設の休止による利用者減が影響。			
中川公園	1,083,185	1,006,759	76,426	バラやモミジなどの情報発信に力を入れ、A・Bそれぞれの地区の相互利用を促進し利用者を増加させた。			
大島小松川公園	1,446,858	1,140,297	306,561	コロナ禍での魅力作りで大花壇を中心に花に力を入れ、効果的な広報との相乗効果により利用者増となった。			
宇喜田公園	668,311	655,366	12,945	ハーブガーデンを中心に都民協働による魅力的な花壇作りによりリピーターが増え利用者数が増加した。			
合計	9,804,685	10,083,231	△278,546				

# 猿江恩賜公園

～歴史とみどりが息づく公園～

## 猿江恩賜公園の特徴

- 歴史や文化を継承する公園  
明治政府の貯木場であったが、昭和7年に公園として開園した。園内のミニ木蔵は当時の猿江貯木場の面影を残す。
- 都会に貴重な自然を残す公園  
多様な生物の生育環境に配慮した環境整備を行うとともに、公園独自の自然環境を利用した取り組みを行っている。

## 猿江恩賜公園の課題

- 樹林地の活用方法の検討  
ウィズコロナの状況下で地域との連携をいかにして発展、持続可能なものとするかについて検討を進める。
- 植栽や施設の計画的な管理  
施設改修や植栽に関する要望を踏まえ、計画的に施設改修・植栽管理を進める。

## 猿江恩賜公園の目標

- スポーツによる健康づくり  
2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。
- 防災機能の強化  
災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

「猿江恩賜公園マネジメントプラン」に基づく

令和2年度の猿江恩賜公園管理運営方針

- ① 豊富な自然を提供し、くつろげる空間を創造
- ② 利用者の利便性・安全性を向上させる公園管理
- ③ 持続発展的な地域との連携

## 取り組み

### 1

## 静かな自然を提供し、くつろげる空間を創造

自然とのふれあいを広げる、歴史を知る。  
アート空間創出のため巨大オブジェを増設。



## コロナ禍でも楽しめる公園の演出

コロナ禍による活動制限下において、チューリップが咲き誇り多くの方の癒しとなった。また、公園の歴史と概要、公園が誇る自然の魅力の発信のために、4か国語音声対応の「概要説明マシン」や公園に生息する魚類を紹介する「水槽」を設置した。さらに、小学生目線の「樹木マップ」の作成や、園内を広く周回して公園の自然を満喫して頂く「森の絵本」を刷新し、多くの子ども連れの利用客から好評を得た。



チューリップの杜



公園の歴史と概要を語るマシン



公園に生息する魚類の展示



森の絵本

## 公園をアート空間に「森のギャラリー」

公園をアート空間にするプロジェクト「森のギャラリー」の一環としてプロのアート作品（「瞑想の軌跡II」と「りんごりんご」）の昨年度設置に引き続き、北園花壇前に「風景の井戸」を新設した。魅力あるアート空間を創出でき、利用者に新たな公園利用の楽しみの場を提供できた。



瞑想の軌跡II



りんごりんご



風景の井戸(新設)

## 利用者の利便性・安全性を向上させる公園管理



利用者の利便性・安全性向上を目的とした施設の修繕及び植栽管理を行った。必要に応じて東部公園緑地事務所と協議を行い、計画的に対応した。

### 利便性の向上を目的とした施設・植栽管理

#### 野外卓・ベンチの全面更新

経年劣化が進んでいた芝生広場をはじめとする野外卓・ベンチの一括更新を行い、利用者から感謝の言葉を多数頂いた。



野外卓更新前



野外卓更新後

#### 安全目線の植栽管理

樹木点検を例年以上に行い、危険枝の剪定を継続的に実施し、利用者の安全確保を第一とした植栽管理を行った。



樹木点検の様相と危険枝の除去作業



#### 広場の計画的な維持

保育園のお散歩など小さな子どもが多く遊ぶ広場を中心に利用者目線での計画的な草刈りを行い草丈管理を適切に行った。



定期的な広場の草刈

### 要望への迅速な対応

#### ランニングコース改善

ランニングコースは一般園路と共用しているため、マナーについての苦情を多数いただいた。マナー看板を設置(12カ所)し、ランナーと一般利用者のすみ分けを行った。



ランニングコースのマナー看板

根上がりによる不陸箇所がランニングコースに多く発生。要望に応え、順次必要な改修を進めている。これによりコースをより安全に使用して頂けるよう対応している。



ランニングコース不陸解消工事

## 持続発展的な地域とのつながり

コロナ禍において近隣小学校と更なる関係を強化。花壇ボランティアと連携した花壇づくりも維持。



### 近隣小学校との関係を強化

スクールパートナー事業で隣接する毛利小学校と連携活動を実施。特にコロナ禍で学校行事が無く思い出が少ない6年生とは、思い出作りの一環で猿江恩賜公園の樹木を調査してもらい、協働で樹木マップを完成させた。



猿江恩賜公園樹木マップ



いも掘り

同小学校6年生による公園への恩返しとして、落ち枝等拾いのボランティア活動が実施されている。



落ち枝拾いボランティア

### 花壇ボランティアとの協働による花壇づくり

花壇ボランティアと協働で、四季折々の花を植え、公園利用者や通勤者を楽しんでもらい今年も多くの賞賛と労いの言葉を頂いた。コロナ禍での制約はあったものの、ボランティアは多くの方々によりよく見せ、いかに喜んで頂けるかを第一目標として取り組み、その成果が表れる活動となった。



# 亀戸中央公園

～歴史とみどりが息づく公園～

## 亀戸中央公園の特徴

### ●歴史や文化があふれる立地

亀戸天神社や亀戸水神宮などの歴史あるスポットや東京スカイツリーなどの観光地が点在する魅力ある地域に位置する。

### ●自然を学ぶイベントの充実

自然体験プログラムやサザンカガイドツアー、各種イベントが非常に充実しており、公園のテーマである「都会でみどりが学べる公園」を実現している。

## 亀戸中央公園の課題

### ●利用者に配慮した公園づくり

公園の老朽化に伴う施設の問題を早期に発見・対処し、来園者が安心して安らげる公園作りが必要である。

### ●サザンカの名所の復元

サザンカの名所の公園として知られているが、現存する品種の種類はあまり多くないので、今後品種を増やし、名所としての実態を回復する必要がある。

## 亀戸中央公園の目標

### ●公園独自の魅力づくり

公園独自の魅力を積極的に発信し、自然観察、様々な世代の交流など、楽しさあふれる公園づくりを目指す。

### ●水と緑の骨格軸の拠点となる公園、街路樹の形成

幹線道路や河川との緑のつながりに配慮した整備を進め、都民がうらおいとやすらぎを実感できる緑の拠点を創出する。

『亀戸中央公園マネジメントプラン』に基づく

令和2年度の亀戸中央公園管理運営方針

① 時代に合わせたイベント展開

② 安心して遊べる公園づくり

③ サザンカの名所の復元

取り組み

1

## 時代に合わせたイベント展開

コロナ禍でも公園を楽しめるサービスを提供



## 季節のワークショップや自然観察会の代替プログラムを展開

これまで大人気であったワークショップ等のプログラムを自粛し、三密を避けるため「お家でクラフト」と題し、自宅でクラフトができる素材（フジ・ムクゲ等の剪定枝を丸めたリースや木の実）の配布を行った。新たな試みとして、クラフトの説明、公園の季節の自然の様子をYoutubeの動画配信で行った。

クリスマスリース作り素材配布



クリスマスリース作りの動画



ひな人形作りの動画



マテバシイの見分け方動画



## 安心して遊べる公園づくり

日次の巡回や月次・年次の遊具点検などで危険個所を敏感に把握し、必要な措置を迅速に行った。

過年度からの懸案であった境界部の万年塀の撤去を完了した。



### 点検とその結果を受けた迅速な措置



月次の遊具点検



直営スタッフによるインターロッキングの応急補修

### 万年塀の撤去

平成30年6月18日の大阪北部地震によるブロック塀倒壊事故を受けて実施した塀の現況調査を基に塀の更新工事を計画したが、その後更新対象の万年塀が境界上に位置していないことが判明した。予算は更新対象の万年塀が境界上に位置することを前提としたものであったため、新規の塀を境界上に設置するのに必要な金額が予算を大きく上回ることになり、当該の塀の更新が未着手の状況が長く続いていた。その間、安全対策として塀回りを立ち入り禁止としていたが、東京都からの指示と助言を受けて、応急措置として当該万年塀を撤去し、同じ位置にポリカーボネートのフェンスを設置した。境界上の塀の設置は令和3年度以降の二次予算要望案件とする。



万年塀撤去前



ポリカーボネートのフェンス設置

## サザンカの名所の復元

サザンカ植栽地復元に向けて、日本ツバキ協会より無償提供された挿し穂を育成。



### 無償提供を受けた差し穂を苗に育てる

亀戸中央公園は開園当初50種4000本のサザンカが植栽されていたとされるが、現在で確認されている品種は20品種ほどであり、長年の管理の過程で30種ほどの品種が失われたとも推定される。そのため、平成30年度に開園当初の50種類の品種を復元させ、「サザンカの名所」としての実態を復活させる計画を策定した。以来、「日本ツバキ協会」から無償で提要された差し穂を材料とした育苗を継続している。園地への苗の植え付けは令和4年度の予定である。



サザンカの差し穂の育成

### サザンカの病害虫防除



毒針毛固着剤によるチャドクガ卵塊の捕殺



もち病除去

園地でのサザンカ植栽は徹底的なチャドクガ対策が前提となる。一方で都市公園での農薬散布は安全面で大きなリスクを伴う。亀戸中央公園ではこの二つの相反する事情を剪定防除や毒針毛固着剤による捕殺で克服している。また5月前後に発生するもち病の除去も徹底した。

# 尾久の原公園

～水辺のいきものとふれあえる街中公園～

## 尾久の原公園の特徴

### ●地域と連携したイベント展開

地域密着型の公園であり、近隣の店舗やボランティア公園に参画する地盤がある。マルシェやワークショップなど他の公園とは趣向の異なるイベント展開をしている。

### ●荒川区でも有数の自然

トンボ池など、荒川区でも有数の自然が残る公園であり、30種類以上のトンボや冬季は水鳥の貴重な生息場所となっている。

## 尾久の原公園の課題

### ●ダイオキシンによる土壤汚染

平成26年に、土壤にダイオキシンが残留しているリスクのある地域に指定され、平成28年3月に公園が全面開放された。

### ●遊具等のハードが少ない公園

子どもの遊べる遊具が原っぱに1箇所しかなく、他の公園と比較しても遊具等のハードが非常に少ない公園。イベントなどのソフト面で公園活性化を図る必要がある。

## 尾久の原公園の目標

### ●東京一“綺麗”な公園！

尾久の原公園は、非常に綺麗な園路や芝生広場が広がっている。きめこまやかな施設管理により、これを継続して維持する。

### ●自然とふれ合える公園づくり

トンボ池など、荒川区でも貴重な自然を活かし、公園の自然を積極的にPRするほか、環境教育プログラムの充実を図る。

『尾久の原公園マネジメントプラン』に基づく

令和2年度の尾久の原公園管理運営方針

① 地域に根差した公園

② 自然と触れ合える公園

③ コロナ禍での周知と安全

取り組み

1

## 地域に根差した公園づくり

地元住民や地域と一体となった公園のあり方を追求



130の店舗、スポットを巡る  
スタンプラリー



### 人をつなぎ、地域をつなぐ

地域の小店を巡るスタンプラリー「下町花・フェス」に参加。公園利用者にもスタンプ用冊子を配布することで、公園から街へ、街から公園へと新しい人の流れを生み出し、公園が地域散策の拠点としての役割を担った。地元荒川区を中心に近隣4区にまたがる130か所の施設や店舗が参加し、地域の活性化にも貢献した。

日常の中に、彩りの変化を

### 園内に散りばめられる14の花壇

公園利用者の約60%を徒歩圏内の近隣住民が占め、高頻度での公園利用者が70%を超えるこの公園において、季節の移り変わりに留まらない景観の変化を魅せるのが花壇の存在である。園内各所にある14の花壇は一年中、絶えることなく花で埋め尽くされ、来園者を楽しませている。また、春と秋には、ボランティア協力のもとに全面的な植え替えを実施。利用者と共に公園を盛り上げている。コロナ禍で来園者から「癒される、きれいです」という賞賛の言葉を例年より多くいただいた。



園内を彩る 花壇の花々



ボランティアの方と共に花壇の植え替え

## 自然あふれる都市公園として

貴重な自然を「守る」「伝える」



### 維持管理の徹底

ダイオキシンによる深刻な土壤汚染を抱え植栽に制限がかかる中で、今の自然を守っていくためには、常に適切な植栽管理が求められている。定期的な樹木検査による状態の把握や、景観維持に不可欠な伐採や剪定。来園者の安心・安全に配慮した、落ち枝や折れ枝の対処など、落葉清掃など細部まで行き届く園内管理を心掛けた。



樹木検査で木の状態を確認



スタッフによる適切な剪定作業

### いきものとのふれあい

新型コロナウイルス感染症対策を行い、園内に生息する様々な生きものを観察する「自然観察会」を今年秋に開催。実施が困難な時期に「生き物探そうシート」や「かさつ結果マップ」を発行するなど、多くの人々が生き物への興味を持ち、触れることが出来る環境づくりに取り組んだ。荒川区とも協力しながら進めている。



「自然観察会」池に集まる野鳥の観察



生き物観察シート



QRコードで動画も!

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止対応と周知

緊急事態宣言・自粛・三密回避



### 緊急事態宣言を受けて 園内施設の利用を制限

外出自粛や他者との接触の回避が叫ばれる中、身近な開放空間である公園の利用者数は大幅に増加した。三密とは無縁に見える開放空間であっても、感染拡大の懸念は払拭しきれないことから、公園では子どもたちが集まりがちな遊具や、狭路である池にかかる木道を封鎖し、感染拡大防止につとめた。



利用禁止となった遊具



密になりやすいデッキを閉鎖閉鎖

### 催事や事業の多くも中止に

例年、夏に子ども達でにぎわいを見せる「じゃぶじゃぶ池」や、通年で行われてきた多くの催事も、そのほとんどが中止の措置を取らざるを得なかった。



オープン中止の案内と、水の無いじゃぶじゃぶ池で遊ぶ子どもたち

### 感染拡大防止への注意喚起

緊急事態宣言の発出を受け、マスクの着用や短時間での公園利用などを訴える園内放送の実施や、掲示物を設けるなど、感染拡大の防止のための取り組みを行い、来園者への周知につなげ役立った。



公園の利用自粛のお願い



広場にもソーシャルディスタンス

# 東綾瀬公園

～緑の中でからだ動かす多世代交流公園～

## 東綾瀬公園の特徴

### ●地域に密着した管理運営

約2kmの緑道に似た公園のため、住宅地に隣接しており、接する自治会の数が非常に多い。そのため地域と連携した活動が盛んであり重要である。

### ●ファミリー層の利用客増加

従来年配の方の利用が多かったが、近年周辺に新規住宅の建設が進み、ファミリー層の利用者が増加している。また、公園のテーマでもある「多世代交流」が進んでいる。

## 東綾瀬公園の課題

### ●樹木に対する苦情対応

東綾瀬公園は多くの住宅に面した公園であり、日当たり確保や強風での揺れや越境枝など樹木に関する苦情対応が課題であった。

### ●パートナーシップの活性化

新たなパートナーシップとして、わんわんサポーターとの提携や花壇ボランティアを立ち上げた。その活動を軌道に乗せて公園を活性化することが課題であった。

## 東綾瀬公園の目標

### ●防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実を図る。

### ●スポーツによる健康づくり

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。

「東綾瀬公園マネジメントプラン」に基づく

令和2年度 東綾瀬公園管理運営方針

- ① 苦情・要望への対応を含めた樹木管理      ② コロナ禍における公園ポテンシャルを引き出す取り組み      ③ パートナーシップの活性化

取り組み

1

## 苦情・要望への対応を含めた樹木管理

東綾瀬公園は多くの住宅に隣接している公園として、見通しや日当たり確保や強風による揺れなど樹木に関する苦情対応が課題であった。



### 強風による高木の揺れや倒木への適切な対応

昨年台風での倒木もあり、今年度は日当たり確保や見通し確保、強風による揺れの恐れがある場所を選定し、対象箇所での計画的な高木剪定を実施した。さらに公園敷地からの越境枝や折れ枝、落ち枝など近隣住民からの要望に応え剪定を行い住民の不安を取り除くことができた。安全な公園として適切な管理を実施した。

台風や強風での揺れや倒木の恐れのある場所を、今までの要望をふまえて具体的に設定して、台風前に重点的に適切に剪定、伐採を実施し、要望者の納得する対応を行った。



作業前



作業後

### 越境枝への適切な対応と剪定

住宅隣接部が多いため、事前に調査して越境している部分を確認し、計画的に越境剪定作業を実施して、安全を確保した。



作業前



作業後

### 落葉清掃による事故防止

落葉樹の落葉の時期、優先して落葉清掃を行い迅速な対応を取り、来園者が安心安全に散歩や通行ができるように努めた。



清掃前



清掃後



## 取り組み

# 2

## コロナ禍における公園ポテンシャルを引き出す取り組み

ボランティアと連携した花壇づくりを進め、公園のポテンシャルアップを図った。



### ボランティアと連携した花壇づくり

コロナ禍において各種イベントや行事が中止となる中で、公園内の花壇、プランターを充実させた。四季折々の花苗を植え付け、開花時には来園者ならびに綾瀬駅前の通行人の心を和ませることができ、数多くの称賛の言葉を例年以上にいただいた。

#### サービスセンター前の大花壇

公園の中心となる広場に隣接する大花壇は、ボランティア「さくら組」と連携し、通年花を絶やす事のないよう計画的に花壇管理を行い来園者を和ませることができた。



大花壇風景



#### 綾瀬駅前通りのプランター

綾瀬駅を中心に大通りを往来するたくさんの人が目にする60個のプランターは、ボランティア「MKN会」と連携し年間を通じて植付けた花が通行人の目を楽しませることができた。



花苗植付

### 東綾瀬公園

#### ハーブボランティア

花壇のコンセプトをハーブとしたハーブボランティアと連携し、毎週月曜日は集合作業を実施してハーブ花壇の充実に努めた。ハーブ花壇は段階的に整備され、来園者からの評判も良く公園の美化にも寄与した。



ハーブボランティア活動状況

## 取り組み

# 3

## 新たなパートナーシップの活性化

「スクールパートナー」「わんわんサポーター」等の新たなパートナーシップの活性化を図った。



### スクールパートナーと連携

近隣の障がい者教育施設や教育機関と連携した活動を継続して受け入れを強化した。足立特別支援学校の職場体験活動は2年生、3年生を対象に受け入れており、今年は4回実施した。また綾瀬福祉園は今年12回実施し、公園広場で小さな子どもたちがケガをしないよう石拾いを行った。



落葉清掃



石拾い作業

### 東綾瀬わんわんサポーター

NPOわんわんサポーターと締結したパートナーシップに基づき、公園内での活動が本格的になった。今年にはわんわんサポーターによるマナーアップ運動の一環として公園内の清掃活動を4回実施した。公園内のマナーアップ向上にも寄与した。



清掃活動



### 公園施設利用団体の調整

A地区多目的広場を利用する11団体について公園施設の利用促進を目的にコロナ禍において全体ミーティングを止め、個別希望を基に全体スケジュールを策定し、年間利用の平準化に努め団体の活動計画をサポートした。



多目的広場利用状況

# 中川公園

～地域にとけこむふれあい公園～

## 中川公園の特徴

- 足立区のかくれ紅葉スポット  
100品種を超えるカエデ類やイチョウ、サクラなどの樹種が秋には見事に色づく。知る人ぞ知る街中の紅葉スポット。
- 街中の静寂閑雅な空間  
下水処理場の上に位置するA地区は夜間閉鎖される。環状7号線に面しているながら静かで落ち着いた空間となっている。

## 中川公園の課題

- サービスセンターの役割  
有料施設が無く立地も悪いためサービスセンターの利用者が少ない。サービスセンターの利用を増やす必要がある。
- 公園の活性化  
公園の広場を活用したイベントや隣接する水再生センターとの関係強化など、公園のポテンシャルを有効活用し、さらなる認知度を向上させることが課題。

## 中川公園の目標

- 公園独自の魅力づくり  
公園独自の魅力を積極的に発信し、自然観察、様々な世代の交流など、楽しさあふれる公園作りを目指す。
- 子どもの健やかな成長の場作り  
子どもたちの野外体験の場を増やし、多世代交流や子どもたちの体力向上を図るとともに、公園のテーマである来園者たちとの“ふれあい”を大切にされた公園管理を行う。

「中川公園マネジメントプラン」に基づく

令和2年度の中川公園管理運営方針

- ① 安心して過ごせる公園
- ② 地域に貢献する公園
- ③ コロナ禍でも楽しめる公園

取り組み

1

## 来園者への安心安全の提供

来園者に安心・安全に公園を利用していただくため、施設・植栽の定期的な点検、危険箇所への対策、ペットマナーの向上に努めた。

12



## 園内施設の危ない箇所への対策

### 子ども目線での施設管理

定期的な点検による園内施設の危険な個所の発見。対応はもちろん、大人では目が届きにくく、子どもが興味を持ちそうな箇所、入り込みそうな場所を想定して点検・対策を行った。結果施設によるケガ人等はなかった。



突き出た鉄筋の除去



はみ出た鉄筋の緩衝材によるカバー

## ペット同伴でも安心していただくため

### マナー巡回

ペットマナーを守っていただくことにより、他の来園者やペット同士の事故を防ぎ、安心・安全に公園を利用していただけるよう、定期的に巡回指導を行い、来園者のマナー向上に努めた。



巡回中のスタッフ

## 倒木等による事故を防ぐ

### 定期的な樹木点検

倒木や折れ枝等による来園者への危険を除くため、定期的な樹木点検を実施し、発見次第早期に処理した。結果、倒木等による来園者へのケガ等は無かった。



スタッフによる点検

## 地域密着型公園としての役割

地域教育機関の校外学習の場としての公園の開放。  
児童達に自然とふれあう貴重な場を提供した。



### 子どもたちによる自然と学習のふれあい

#### 貴重な体験学習の場

近隣小学校5校に体験学習の場として、園内一部を学校農園とし開放。農作業を行うことで、農作物について学習し、収穫の喜びを実体験する一助となった。



児童によるジャガイモの種芋植え及び収穫

#### 安全な校外学習の場

近隣の教育機関との連携により、遠足等で児童たちに自然と触れ合う空間を提供した。特に公園A地区2階は金網に囲まれた独特な空間のため、安心して児童達を活動させられると評価をいただいている。



児童によるどんぐり拾い

## コロナ禍での対応と来園者サービス

速やかな来園者への周知、対応。外出が制限される中、公園ならではのサービスを提供、来園者に利用していただいた。



### 緊急事態宣言下における公園の速やかな対応

#### 来園者への丁寧な周知

コロナ禍における公園施設の利用自粛という状況に対し、来園者への適切な周知対応を行い、理解を得ることができた。



砂場利用禁止措置



来園者への施設利用中止の周知



### マスクでも楽しめる

#### 森の絵本

コロナ禍で密にならないように公園を楽しんでいただくため、絵本仕立ての作品を展示し、散策しながら楽しめる。親子でゆっくりとした時間を過ごせるプログラムを実施し、好評を得た。



絵本を楽しむ親子

### 公園素材の利用

#### どんぐりの標本の提供

園内でのどんぐり拾いを楽しんでいたため、どんぐりの実と名前を表示した標本を提供。来園者に非常に好評だった。



どんぐりの標本

### 開花時期の情報提供

#### 開花時期の情報提供

来園したタイミングで観賞できる樹木や花の情報をホームページなどで提供することで季節ごとの公園の魅力を伝えることができた。



園内掲示用の開花情報

# 大島小松川公園

～自然を肌で感じるアクティブパーク～

## 大島小松川公園の特徴

### ●多彩なレクリエーションの場

広大な自由の広場、東部7公園で唯一のバーベキュー場、巨大アスレチックなど様々なレクリエーションを楽しめる。

### ●自治会・ボランティアとの連携

江戸川区と江東区に面しており、各自治体と密接な関係を構築している。花壇ボランティアや犬の糞清掃ボランティアなど様々なボランティア団体が活動拠点にしている。

## 大島小松川公園の課題

### ●六価クロムの滲出

一部の公園区域に六価クロムが埋蔵されており、日々の滲出状況のチェックや析出した六価クロムの還元など、適性かつ安全管理を行う必要がある。

### ●ロケーションの活用

自由の広場や風の広場など魅力的なロケーションを有する公園である。この抜群のロケーションを積極的に活用する必要がある。

## 大島小松川公園の目標

### ●スポーツによる健康づくり

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。

### ●防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

「大島小松川公園マネジメントプラン」に基づく

令和2年度の大島小松川公園管理運営方針

① 六価クロム対策の徹底

② 利用者の安全安全を確保

③ 大修景花壇による季節感の提供

取り組み

1

## 六価クロム対策の徹底

安心・清潔な公園づくりの一環として六価クロム滲出現場の点検、洗浄、還元処理、流出対策工事を実施した。



### 3人体制で毎日4回の点検

巡回員2名と責任者1名で毎日午前2回、午後2回点検→

- ①白色化の場合→水洗い
- ②黄色化の場合→検査(反応ありを確認)→還元剤散布→検査(反応なしを確認)→水洗い
- ③汚染水滲出の場合→概ね②に同じ



検査(反応あり)

### 高圧洗浄

汚染水は地下の有孔管に流れ込んで還元処理施設に導かれる仕組みになっている。処理施設への汚染水の流れ込みが少ないときは有孔管や処理施設自体のINの管が閉塞している可能性があるため、状況を見て有孔管やINの管を高圧洗浄した。



有孔管の高圧洗浄

### 汚染水流出対策工事

大雨や長雨の際には風の広場法面から園路平板部に汚染水の流出が起こる。これを防ぐため東京都と協議し流出対策工事を実施した。



取り組み

2

## 利用者の安全安心を確保

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、人の多く集まるところの安全安心を目指し、スポーツ施設の男女更衣室と遊具に抗菌剤の塗布を施した。



「光触媒」と呼ばれる光に当たることで強力な酸化分解作用が起こる酸化チタンの専用薬剤を、利用者の手が触れる更衣室や遊具に吹きかけて、菌やウイルスを減らし感染リスクの軽減を行った。

「光媒体」はアルコールに比べて持続性が高いので広範囲のエリアに適しており、コロナ禍においても利用者が安全・安心に公園を利用できるように努めた。



光触媒コーティング施工済証シール



光触媒を遊具に塗布するスタッフ

取り組み

3

## 大修景花壇による季節感の演出

都内有数の面積を誇る広大な花壇に、季節毎の花修景を都民協働にて創作。季節感の演出を行った。



### 大修景花壇の充実

2017年12月に発足したボランティア団体が毎週火曜日の集合作業を実施継続。春はナノハナ、初夏はネモフィラ、真夏はヒマワリ、初秋はコキアと季節毎に大規模花修景を演出し、多くの来園者を楽しませることができた。

2020年8月には、都営地下鉄の広報紙に当花壇のヒマワリ畑が紹介され、連日多くの来場と問い合わせが続いた。

花壇ボランティアの会員数は発足時の2名から2021年3月現在10名を超え、会員のスキルの向上も手伝い、現場の品質を年々向上させている。



ナノハナ



ネモフィラ



ヒマワリ



コキア

# 宇喜田公園

## ～人と街を緑でつなぐ公園～

### 宇喜田公園の特徴

- 広々としたスポーツ広場**  
広いスポーツ広場や少年野球場があり、子どもたちがのびのびと球技などで遊ぶことができる。
- 人気上昇ハーブガーデン**  
平成29年度にリニューアルしたハーブガーデン。花壇の管理をボランティアと協働で実施し、充実が進んでいる。公園のおすすめスポットとして人気である。

### 宇喜田公園の課題

- 管理所のない公園**  
東部7公園の中では唯一管理所がなく、利用者の声が届きにくいことや巡回の目が届きにくいといった課題がある。
- ペットマナーに関する苦情**  
隣接する江戸川区立行船公園とともに散策や犬の散歩による利用が多い。管理所が無いこともあり、ペットマナーの悪さが以前から問題となっている。

### 宇喜田公園の目標

- 水と緑の骨格軸の拠点となる公園、街路樹の形成**  
幹線道路や河川との緑のつながりに配慮した整備を進め、都民がうるおいとやすらぎを実感できる緑の拠点を創出する。
- 防災機能の強化**  
災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実を図る。

【宇喜田公園マネジメントプラン】に基づく

令和2年度の宇喜田公園管理運営方針

- ① 世界の花壇「ハーブガーデン」の拡充
- ② 園内施設の点検重視
- ③ 江戸川区との連携

### 取り組み

## 1

## 世界の花壇「ハーブガーデン」の拡充

世界の花壇と位置づけたハーブ花壇を都民協働で実施。住民たちの憩いの場としての効果も増大。



### ハーブの魅力発信と地域への還元

2017年4月より発足したボランティア団体の定期活動を毎週水曜日に継続実施。花壇は年々グレードアップが進み、今や園内で最も注目を集める場所に大変化した。2020年は6月に見ごろを迎えたラベンダーを摘み取り、公園利用者に配布した他、近隣の病院、保育園、介護施設へ配布することで、コロナ禍で公園に遊びに来られない方々に、ご自宅で公園の季節感を楽しめる演出を行った。ラベンダーは2017年4月、僅か20株を購入し育成開始。

その年の秋より挿し芽による育成増殖を図り、2020年現在、現場のラベンダーの株数は600株を超えた。

2021年の3月には、育成したローズマリーの剪定枝を処分せず、紐で束ねて来園者に配布し、地域への還元に努めた。



ラベンダーの摘み取り



ラベンダーの配布



ローズマリーの剪定枝配布

取り組み

2

## 園内施設の点検重視

毎月1回以上の自主点検を行い、安心・安全な施設を維持。  
いつでも使える施設整備に尽力。



### 毎月1回以上の自主点検

遊具施設と防災施設の自主点検を毎月1回以上実施。遊具施設は未然に事故を防ぎ、防災施設は利用が常時可能な状態を維持した。

2021年2月には遊具の磨耗部品を早期に発見。その場で利用閉鎖を施し、事故を未然に防いだ。

防災施設については毎月1回以上の点検と新人スタッフへの指導演習を実施し、組織の強化と有事の対応に備えている。



遊具の磨耗部品発見を受けた一時閉鎖措置



防災設備の点検、新人への指導演習



かまどベンチの使用演習

取り組み

3

## 江戸川区との連携

サービスセンターが無い状況下で、安心・安全・快適な施設利用を目指し、地域自治体との連携を強化。



### 運動施設の共同管理

運動施設の管理は、利用調整を江戸川区、現場の維持管理を宇喜田公園で担っており、安心・安全を第一に連携強化を図っている。

直近1年の間では、月2回の草刈日程の調整、新型コロナウイルス感染症予防のための閉鎖協議、利用者へのマナーアップ活動、利用者からの情報等の共有を行った。

職員が現場に常駐できないという現状を補い、利用者からの高い満足度を得るべく、連携強化に取り組んだ。



草刈り作業予告と騒音苦情を受けた利用指導の掲示



利用状況



土入れ